

こんにちは！お元気ですか。

マツサカエンジニアリング メルマガ 27号を送ります！お楽しみください！

（※お電話頂いた時は・・・お電話有難うございます。

メック（英文名：Matsusaka Engineering Co., Ltdの頭文字でMEC）です！と応答しますので宜しくをお願いします）

—★ News Topics ★—

- | | |
|------------------|-------------------------|
| [1. MEC 市場情報] | エルニーニョとポンプ販売数！？ |
| [2. MEC 部品情報] | 3段異径タケノコとは？ |
| [3. MEC 技術部発信] | エンジンポンプの自吸孔 |
| [4. MEC QMS 事務局] | MECの”QMS”活動、22年間の変化について |
| [5. MEC 設備情報] | MEC多気工場にAED設置 |
| [6. MEC 営業部発信] | MEC インスタ始めました！ |
-

☆☆—————☆☆

TOP NEWS 当社おすすめ商品・イチ押し商品をピックアップ

—————☆☆

猛暑が続いておりますが、皆様体調を崩さずお過ごしでしょうか？

この天候に大きく影響を与えると言われる「エルニーニョ現象/ラニーニャ現象」、皆様ご存知でしょうか？

ネットで検索すると「西太平洋熱帯域の海面水温の上昇が…、太平洋高気圧の張り出しが…」などと現象の説明が

たくさん出てきます。ややこしいので私は次のように覚えています。

●エルニーニョ現象 →日本＝冷夏+暖冬

○ラニーニャ現象 →日本＝暑夏+寒冬

ここで、タイトルに戻るのですがこれらの気候現象がなぜポンプの販売数に影響を与えるのか！？実は2インチ高圧ポンプを多く購入しているオーストラリアの市場/用途の特異性にヒミツがあります。オーストラリア

では 夏/冬が日本とは真逆で、12月～2月に【夏季】が来ます。

この夏季、もし雨が少ないと非常に高温/乾燥になり「ブッシュファイアと呼ばれる自然発火」が多発します。これらの

火災から家屋を守るべく、オーストラリアの家には“自らを濡らして炎から身を守るように”スプリンクラーが設置されて

おります。そこで我々がQP-205SE（代表的な2インチ高圧モデル）が大活躍するわけです。

つまり、オーストラリアの夏が「雨が多くなるのかどうか」で、ポンプの販売台数が大きく変わるので。ちなみに

エルニーニョ/ラニーニャ現象がオーストラリアへ与える影響は次のとおりです。

●エルニーニョ現象 →オーストラリア=少雨の夏(12~2月)

○ラニーニャ現象 →オーストラリア=多雨の夏(12~2月)

【エルニーニョ/ラニーニャ現象と日本・オーストラリアの気候↓】

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2022/08/el-nino.pdf>

ですので「エルニーニョ現象が発生し、オーストラリアの夏が少雨/高温」になると、ポンプが売れるという事になります。

ここでオーストラリアではどういうモデルが多く使われているのか、少し説明させていただきます。

*代表的 2 インチ高圧モデル : QP-205SE/GX160

*U 字ハンドルで小型軽量 1.5 インチ高圧モデル : QP-154SX/GXH50

*2 インチ最高圧力モデル : QP-T205SLT/GX270

*大口徑 4 インチ！高圧ディーゼルモデル : QP-T405SLTD/D722

(高圧総合カタログ↓)

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2020/10/WDC001808.pdf>

(MEC オーストラリア代理店 カタログ紹介ページ↓)

<https://aussiepumps.com.au/pumps/qp-pumps/fire-fighting-pumps/>

さて、長々と書いてきましたが記者である私、オーストラリアの担当なわけでした…

毎月気象庁から発表される「エルニーニョ監視速報」が気になって夜も眠れません…(冗談です)

(営業部 中瀬記)

☆☆—————☆☆

MEC 部品情報 : 3 段異径タケノコとは？

—————☆☆

皆様突然ではございますが『3 段異径タケノコ』という部品がある事をご存じでしょうか？

ポンプ吐出口に装着するホースカップリングという部品がありますがこのホースとの接続部の部品を『タケノコ』と言います。

そしてこれが『3 段の異径』となっております。 …??? はあ？

これで分かる方は分かり、分からない方は分からないという事承知しております。

そもそもホースカップリングって何？と聞かれると話が進みませんので百聞は一見に如かずという事で動画を撮りました！

先に少し説明させていただくと当社の 1 吋一般灌水タイプのポンプ QP-105 や 1.5 吋ポンプ QP-154 には付属品として製品にこの

部品が同梱されていますが、意外と便利なのですが、あまり使い方を知られていないので今回ご紹介する経緯に至りました。

是非是非ご視聴の上ご活用下さい。

【3段異径タケノコのご紹介動画↓】

<https://youtu.be/FU87Dn3S2fg>

(営業部 和田記)

☆☆—————☆☆

MEC 技術部発信：エンジンポンプの自吸孔、何だろう？

—————☆☆

MEC では、ご存じの通り ” 自吸式 ” ポンプの製造・販売しています。

MEC のポンプのブランド名は「QP ポンプ」ですが、「Quick Priming」の頭文字から付けております。即ち、自吸の早いポンプを象徴しているんです！

ここから先はちょっと難しい話しになってしまいますが、自吸性能を決める要素の1つとして、ポリユート室(内ケーシング)表面に開いた自吸孔があります。

【自吸孔の写真↓】

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2022/08/VOLUTE-CASING.pdf>

しかも、色んなポリユート室を比較してみても孔の大きさ・形状・位置に規則性がないんです。実は、ポンプの設計計算書を読んでも導き出すことが出来ないのです！

現在 MEC で販売しているポンプの自吸性能は、無限にある孔の大きさや位置の関係を1つ1つ実験で検証した産物です。

明けても暮れてもポンプの実機と向き合っポンプを分解して、自吸孔を開けて、ポンプの組付けこれのくり返しでケーシングを

締結するボルトが疲労で折れるくらいのくり返しでそれはもう大変です。

古くからあるポンプも多いですが、先人(諸先輩方)の偉大さを実感しています。

(技術部 山川記)

☆☆—————☆☆

QMS 事務局発信：MEC の ” QMS ” 活動、22 年間の変化について

—————☆☆

” ISO” は言わずと知れた国際規格で、「国際的な規模で基準を統一する規格」＝「世界基準のものさしを作る規格」です。

品質規格の 9001 は全世界で 100 万以上の組織が認証を受けており、国別では中国が一番多く、日本は 4 位だそうです。

MEC では 2000 年に ISO9001 の認証を取得し今年 22 年目となります。

「10 年ひと昔」と言いますが、” ふた昔” 以上となりました。

ちょっと余談ですが 22 年前の 2000 年に何があったか調べてみました。海外では、時の人プーチンさんが大統領に、

シドニーオリンピック開催・女子マラソン高橋尚子金メダル獲得、日本では、小渕首相脳梗塞で死去＝森喜朗内閣発足等々、

改めて昔です。

取得当時私は入社 4 年目でしたが、当時と現在の工場の生産プロセスを比較しても、より整然とシステムチックに

おこなわれるようになり、様変わりしたと言えます。

さて、この 22 年の間に ISO9001 適用規格は、1994 年版で取得後、2000 年版/2008 年版/2015 年版へと 3 度の変更があり、

文書の変更をはじめとして適宜対応してきましたが、改めて品質マニュアルの版数をみると現在 37 版で 37 回も改訂して

きたという事になりますが、

当時の記録を見て、鳥瞰的に 22 年前とどう変化したかを表現すると活動全体が「シンプルに簡素化」されたと思います。

例えば品質文書の手順書でいうと規格で要求される文書数の変化もありますが、2000 年は 23 文書でスタートしましたが、

現在は 8 文書とかなり少なくなっており、これは「本当に必要なものは何か！、統合できないか！」などの視点で常に

レビューした結果が表れています。

また今は年 1 回のマネジメントレビューが、当時は 3 カ月毎、年 4 回実施されていました。当然、品質管理責任者から

社長への活動報告（インプット情報）も年 4 回です。更にインフラの点では、フレーム関係加工設備新替え、新倉庫建設、

製造ライン省力化機械導入、大型ポンプ生産工場新設、技術実験室建設等々、生産の効率化、省力化への投資もおこなわれ、

大きく変革しています。

また QMS 事務局組織では、仕向け国別に異なり厳しさを増す環境法規制や企業の社会的責任に適応すべく「コンプライアンス

チーム」と、インターネットはじめとした社内インフラを管理する「通信チーム」が 2019 年新設されると共に、「労働安全衛生

チーム」も新たに加わり「組織を取り巻く環境の変化」に対し、QMS 活動の中で対応する体制へと変わりました。

こう書きながら読み返していると、なんか、すごくスマートに「ピシッと」した QMS 活動を着実に進めているように

聞こえますが……、その実は、課題は山ほど?、目眩がしそうです（汗）……。
数々ある課題の中でも、特に内部監査の質が一番の課題です。監査の質といいますか、「監査員の
監査力量」です。

① 現在の各部業務システム・プロセスを知り、② 問題や改善点・リスクをピックアップ＝
指摘し

③ 改善提案ができる！ 力量です。 あ～、また目眩が・・・（涙）

でも、さらに着実に進歩・変化させるためには これから一番変わらなければいけないのが、従来
のやり方を踏襲するのが

当たり前感覚の、「カチコチに固まった頭の中」かもしれません（笑）

（QMS 事務局 輪嶋記）

☆☆—————☆☆

総務部発信：MEC 多気工場に AED 設置！

—————☆☆

AED を使えば助かる命がある．． 必要なのは少しの勇気と貴方が行う救命行動！！

こんな言葉を見たことがありましたが、多気工場の周辺で AED 設置箇所を調べたところ徒歩 10 分
越えの地域に 1 カ所のみ！。

社員、近隣住民の方を含め、これでは助かる命も助からない…と言う事で、2 年前に多気工場に
AED を設置しました。

しかし、本来であれば、設置後すぐに行う予定にしていた AED 講習ですが新型コロナウイルス感染
拡大の影響を受け

講習会は延期、延期…。ようやく、消防署の指導のもと 2 年越しにて実現しました。

殆どの方が初めて手にする AED かと思われましたが、なんと！！社員の半数以上が講習を受けた
経験がありました！！

人体モデルを使用して胸骨圧迫とトレーニング用 AED を用いた実地訓練を行いました。実際に
数々の緊急事態に立ち会って

きた署員の方々の指導は和やかながらも程好い緊張感で、胸骨圧迫では、「もっと力を入れて！」
「もっと早い間隔で！」

「いいリズムですよ」等指導や、声掛けをしていただきました。

周りで見学している社員からも、「あの強さで押したら、肋骨が折れそう……」「押すの弱すぎて、
助からないよね」等の声も

あがりました。一定のテンポで十分な強さの圧迫を続けるのはすごく疲れました。へろへろになり、
掌には水ぶくれが出来ました。

実際に応急手当を行う事態に出くわしたら、緊張、人の命、責任感、焦り…色々な重みを感じて動くことが出来るか…??!
と考えさせられました。

AED 設置時から、もしもの時近隣の方にも使用して頂けるよう、設置施設と分かるように事務所の入り口には「AED 設置」のステッカーも掲示しています。少しでも早い救命の為には、身近な設置場所を知っておくことも大事です!!

≪傷病者が発生したとき放置することなく、誰かがすぐに手当を行うような社会にするそのためには、まず、応急手当の正しい知識と技術を覚えて、実行することが大切です。今回の講習が少しの勇気に繋がればと思います。≫

【2年越しの講習の様子はこちら↓】

<http://www.qp-pump.com/wp/wp-content/uploads/2022/08/AED.pdf>

(総務経理部 佐野記)

☆☆—————☆☆

MEC 公式インスタグラム始めました!

—————☆☆

まだまだ投稿は少ないですが、今後【製品情報】や【用途紹介】など色々なトピックスを投稿していきたいと思えます。

【MEC インスタ アカウント↓】

https://www.instagram.com/qp.pump_matsusaka/?hl=ja

特にこれから“ストーリーズのハイライト”にユーザー様がQPポンプをお使い頂いているインスタ投稿をシェアさせて

頂きたいと考えております。

今のところ未だ1件ですが、九州のある地方自治体様がQP-3Tiを設置/導入しているシーンを紹介させて頂いております。

メルマガ vol. 24でも紹介しておりますが、用途は「豪雨による異常増水時の排水用途」です。

今迄、ある特定の場所で長時間豪雨が続きと市が管理している公園の側溝が溢れだし、その地域にある工場が冠水して

しまうという現場です。ここでどうやってQP-3Tiが活躍することを期待されているのか?下のイメージ動画をご覧ください。

【現場イメージ動画↓】

